



岩手県三陸海岸の田舎に行ってきた。いつも思うのだが夏とはいえ寒いところだ。親戚の家に行ったらまだコタツが普通にでていて、その後ろに石炭ストーブが2台並んでいた。すぐにダッカの酷暑の中に行く身としたらいいのか悪いのか、

ダッカからは 太陽が見えずに降ったり止んだりしつつも熱気が渦巻いているという話がメールで聞こえてくる。というか、ダッカの机に向かっている人と、東京や、岩手で机に向かっている人が時間差なしに自由な会話ができていと言うことで。距離も国境もないと言うことです。

恐ろしい時代です。さっきも、ダッカの博士から「丸ちゃんの天ぷらそばを持ってきて。」などと言ってきたから、「わかったよ。」と返事をしたら、「着いたら夜中でもいいから起こして。」などと言う会話。まあ、とりあえずダッカのホテルで安眠している博士をたたき起こして、一杯飲ませてから、何をするのか考えよう。朝の3時ころかなー。しかしまあ、向こうで何をやるかなんてのは、いつも現場に出るまでわからぬのだから。と言うことは準備に困るが仕方がない、当面はどうやって酒を大量に密輸するかと言うことが第一義です。

と言うことで、明後日ダッカに行くのでなんとなく気ぜわしい、いな、間のことを考えておかなければいけぬ、仕事もそうだけれど、町会のことも、町会長会議とか、避難所訓練会議、交通安全運動のための会議、選挙管理人関係、回覧板、役員会の召集、資金繰りから、なにかからと本当にやっかいた。「町会長が国外逃亡している間はいいのだから、副会長が二人もいるのだからやってくれればいのです。なーんにも文句はありません。」というのだが、みんな、手配しておかぬと何も決めていってくれぬから困るんだな。勝手にやっついよと思うのだが、それで、うまくいかなかったら、すぐに引責辞任するんだから簡単なのだがな。自分の立場を守らなければいけぬと思うと、本当はいいんなのだらうが、そうでなければ気楽です。

さて三陸海岸の昔のバス道を歩いてきた。GPSを持っていたから衛星写真上に軌跡を落としたら見事なぐるぐる回りの道で、今のトンネルの道の倍以上の距離があった。使われていないバス道とは言え、林の中に少しも荒れずに残っていて、気持ちよく歩ける道として快楽だった。昔の人は、実に良く地盤の弱点を見抜いて美しいパズルのように道を作っている。すぐ近くに断崖が続く三陸海岸があると言うのに、少しもそんなところを見ることもなく、安全な林の中を大して登りも下りもいぬのにあとから見返ると、高い峠を越えていたりする。古代からの道を明治になってバス用に直したのだらうが、ついにこの間までちょんまげを結っていた日本人のまっとうさに改めて感動する。そんな感動を胸にまたバングラへ行ってきます

ブログのアドレス <http://blog.goo.ne.jp/gnomesjp/> まだやっています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com